

子どもの読書率のさらなる向上を目指して!

社会教育課

～「熊本県内における平成27年度子どもの読書アンケート」結果～

本県では肥後っ子いきいき読書プラン(第三次) [H26～H30]に基づき、子どもの読書活動推進に取り組んでいます。

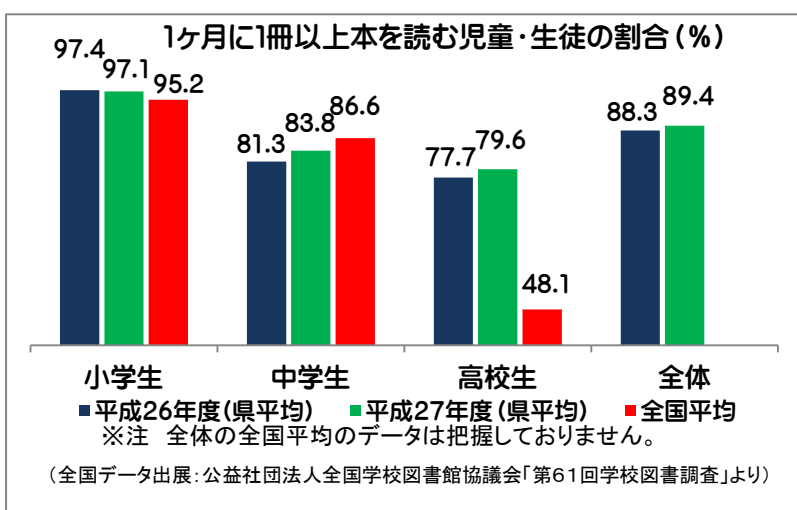
この度、毎年実施している「子どもの読書アンケート」の結果がまとまりました。本県の現状や特徴をご理解いただき、今後の各学校での取組にお役立てください。

1 アンケート対象

調査校として、小学校 11 校、中学校 11 校、県立高等学校 10 校を抽出し、各学年学級の児童・生徒を対象に実施しました。(回答数:小学生 2019 人 中学生 987 人 高校生 965 人、計 3,971 人)

2 アンケート結果

(1) 1ヶ月に1冊以上本を読む児童・生徒の割合<読書率>について



・1か月に1冊以上本を読む児童・生徒の割合(全体)は、過去最高となる89.4%を記録している。

《平成30年度末目標値:90%》

- ・小学生は全国平均より高い傾向が続いている。
- ・中学生は、全国平均には及ばない(-28ポイント)が、上昇傾向にある。
- ・高校生は、全国平均よりかなり高い(+31.5ポイント)

(2) その他のアンケート結果について

<すべての校種に共通する結果>

- ・1年前より本を読むようになった理由として「学校での読書時間がある」との回答が最も多い。
- ・1年前より本を読まなくなった理由として「時間がない」との回答が最も多い。

<小学生>

- ・多読(読書量が1か月に3冊以上)が定着傾向である。
- ・本を読む理由として「本を読む場所の存在」と「家族から受ける影響」が大きい。

<中学生>

- ・読書量は現状維持との回答が最も多い。
- ・「1年前より読書量が減った」や「読みたい本がない」と回答した生徒は新しい蔵書の特を求めている。

<高校生>

- ・約80%が「読書は好き」と回答している。
- ・「1年前より読書量が減った」や「読みたい本がない」と回答した生徒は自分に合う本の紹介を特に求めている。



黒石原養護学校 (H18当時)
の生徒さんの作品

今回のアンケート結果から、各学校での読書時間及び読書環境の確保は有効であると言えます。

社会教育課では、肥後っ子いきいき読書アドバイザー事業をはじめとした子どもの読書環境整備に取り組んでいますので、各学校におかれましても、子どもの読書率の向上に御協力いただくとともに、積極的な活用をお願いいたします。